

親子聖書日課

NO.1881 2024.10/13-19

名前

[日]いつの時代も非難したり、足を引っ張る人がいます。その時、相手に応戦するのではなく、「主よ、私の神よ、救いの力よ」と、主に助けを求めることです。すると、主は「先頭に立って」私達を守って下さいます。悪に対して、主の力で対抗しましょう。

[月]祈りが聞かれる秘訣は、毎日祈ることです。「夕べの供え物」として、毎日献げられた祈りは、神に喜ばれる香ばしい香りでした。その香りとは、悔いし、砕けた魂の祈りです。自分を誇る祈りは、悪臭そのものです。生涯、主を誇りとしましょう。

[火]信仰とは、我慢の生き方ではありません。苦しい時、「声をあげ、主に向って叫んで」よいのです。むしろ、主に向って叫ばないで、自分で何とかしようとするのが問題です。主は「お前の苦しみは分かった」と言って、助けて下さるのです。

[水]誰でも過去の罪は思い出したくないですね。しかし、信仰者は過去の罪を思い出して感謝できます。主の十字架の赦しがそこにあったからです。義人は一人もいません。悔い改めて、主の赦しを頂きましょう。萎えた心は生き返ります。

[木]危篤状態の人を見ると、「人間は息にも似たもの」であることが分かります。若くて、健康で、能力のある人でも、人間は弱く、はかない存在です。しかし、主はそんな私達を愛し、永遠の命を与えて下さいました。主をほめたたえましょう。

[金]「ダビデの詩」の最後のもので、彼の信仰がよく表れています。主は裁き主でありながら、忍耐と慈しみをもって、私達が悔い改めるのをじっと待っていて下さるのです。ですから、今からでも遅くはありません。悔い改めて、主に感謝しましょう。

[土]ここから150篇までハレルヤで始まり、ハレルヤで終わる「ハレルヤ詩編」と呼ばれます。ハレルヤとは「主を賛美します」という意味です。「命ある限り」賛美する時、心は喜びと祝福で満たされます。主を賛美し、ハレルヤ人生を歩みましょう。



	聖書	問題	答え
日	詩編 140:1-14	私が武器を執る日、主はどこに立って、私を守って下さいますか。	
月	141:1-10	私の祈りを夕べの何としてお受け下さいと祈るべきですか。	
火	142:1-8	声をあげ、主に向ってどうすべきですか。	
水	143:1-12	私は何を思いめぐらしますか。	
木	144:1-15	人間は何に似ていますか。	
金	145:1-21	主は造られた全てのものをどうして下さいますか。	
土	146:1-10	命ある限り、私は主をどうしますか。	
感想と祈りの課題			